

あたる。

第9図はこれらの火災の起こった日の天気図からとった高気圧の位置を示す。図中の○印は風が強く乾燥した日の高気圧の位置であるし、●印は風は弱かったが異常乾燥した時の高気圧の中心である。このことから熊本県の大火は北または北西の季節風が強くしかも空気が乾いた時と、移動性高気圧が日本海方面に進み東または東北



第9図 戦後熊本県に起った大火時の高気圧の位置  
注：○印風が強かった場合の高気圧の位置  
●印風が弱かった場合の高気圧の位置

東の風となりフェーン現象によつて昇温し、異常乾燥した時に起こるといことになる。延焼は普通風によって起るが、風の弱い時でも最小湿度が30%以下になると異常に延焼するといことになる。

#### 4. む す び

熊本県の火災について調べた結果次のことがわかった。

- (1) 市・郡の出火状況は人為的な面で多少変わって来る。
- (2) 出火にも地形的な条件がかなりありうる。
- (3) 大火は季節風の時にフェーン現象などによる異常乾燥時に多い。
- (4) 火災通報は年間にどれくらい出せば効果的であるかという手がかりがつかめた。

この報告をまとめるについて指導を受けた岡熊本地方気象台長に感謝する。

## 気 象 の 英 語 (46)

### 49. Rather と a little

Rather にはいろいろの意味があつて大変ややこしいが、普通に使われるものは大別すると次の3つになる。

① “would rather”, “had rather” または “rather than” という形で出て来る時は、“……した方がよい” “その方が好ましい” という意味。たとえば有名な文句では

I had rather err with Plato than be right with Horace = Horace と共に正しからんよりは Plato と共にあやまたん。

② 対照的な言葉 (たとえば次の例では night と morning, result と cause) が出て来る場合は、大抵、“もっと正確に云えば” という意味。よく出る例では

Late last night or rather early this morning = 昨夜おそく、もっと正確に云えば今朝はやく。

Orderliness is not the result of law; rather it is the cause of it. = 規律の正しさは法律の結果ではない。正しくは法律の起因である。

③ この場合が一番多いのであるが、対照的な言葉が出て来ない時である。大抵の場合、“どちらかと云えば”

という意味である。“rather good” は、“good と bad とに分ければ、どちらかと云えば、good の方だ” という感じ。

The practical test was rather successful. = この実地試験は、どちらかと云えば成功だった。まずまず成功したと云えるだろう。

The test was rather a failure. = その試験は失敗の方だった。

上のことから、程度を衰わす言葉と一緒に使った時には rather には “少し” “やや” “割合” というような意味も出て来る。

“少し” と云う意味の普通の言葉は “a little” であるが、a little の方は、ただ程度を示すにすぎないが、rather の方は上述のように、撰択の気持を持っているので、rather は好ましいことに使うのが普通で、好ましくないことにはあまり使わない。

His skill score is rather high. = 彼の予報成績は割合良い。(skill score は予報技術の点数の一種)

“かなり” という意味に rather が使われていると思われる場合もあるが、これは方言的な用法らしいから、われわれは使わない方が無難。また以上の使い方の他に口語では、返事をする時に、“無論そうだとも” という意味で、“Rather!” ということもある。(有住直介)